タディのお正月

門松（かどまつ）

こども

かどまつは、お正月に家の入り口に立てられる
一対になった松や竹のかざりのことで「まつかざり」ともいわれます。

おとな

門松は、お正月の家々の門の前に立てるもので
「松飾り」、「飾り松」、「立て松」ともいいます。
関東では、丈の高い太い竹に松や梅を添えたりします。
関西では、松の枝または小さな若松を用いたりします。
松飾りは一対で飾ります。

「松は千歳を契り、竹は万代を契る」との例えがあるそうで、一般の門松に松と竹が使われるのは、神の宿る場所が、永遠に続くことを願っての組み合わせです。

お正月は本来、神様（年神）が地上におりてくる日と考えられています。
門松（かどまつ）は、神様が私たちの家におりてくるときの目印と言われています。

松は、昔から常に緑であり、おめでたい木とされており、鎌倉時代以後になって、松に竹を加えて門松とされるようになりました。

門松の一夜飾りはしない？

門松は、３１日にするのを「一夜飾り」といってさける習慣があります。
また、２９日に立てるのは、「九松」といって「苦待つ」に通ずるということから嫌われています。だいたい１２月２８日までに立てる家庭が多いようです。

松の内って？

松の内とは、元日から、門松を取りはずす日までの期間をいいます。歳神を迎えて、役目のすんだ門松は、普通、七草の７日に取りはずすようですが、地方によっては、４日、６日あるいは１５日までと様々なようです。

笑う門には福来る！